

そば栽培のポイント

令和元年7月



は種までのスケジュール

作業時期	作業内容	留意点
7月中旬まで	周囲明渠の設置	地表水の半日以内排水
7月下旬	草刈り	ほ場内の雑草を処理
	石灰の散布	は種前一週間以前に実施 は種までに降雨がある場合は、は種直前に実施
8月上旬	耕起・畦立て ・施肥・は種	専用機による同時作業 散播の場合は、均一に播くよう努める (は種深は浅くし、十分鎮圧する)
	ほ場内排水溝の設置	周囲明渠につなぐ



排水対策～は種

(1)排水対策

そばは湿害に極めて弱い作物です。降雨後の地表水が半日以内でなくなるように排水対策をしましょう。

水田転換畑では、周囲明きよは幅 30cm、深さ 25～30cm 程度確保しましょう。

畦の一部を切り、明渠を流れた排水が、ほ場外に流れるように溝を掘ります。

(2)施肥

ア 石灰散布

土壌pH を 6.0 程度に補正します。標準散布量は消石灰で 10a 当たり 60～80kg 程度とします。

イ 肥料散布

標準的な施肥量 (成分 kg/10a 当たり)

窒素	リン酸	カリ
1～2kg	4～8kg	5～10kg

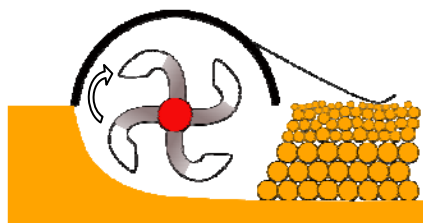
そばの収量確保には結実率が重要となるため、リン酸とカリを十分に施用しましょう。特に、黒ボク土壌ではリン酸を多めに施用しましょう。

条施肥する場合は、発芽障害を防ぐために肥料が種子の下方の場合は3cm 以上、横の場合は5cm 以上離し窒素を控えめにします。

連作で生育量が不足するほ場では、基肥全体の量を増やしましょう。ただし、窒素の過剰施肥による倒伏に注意してください。

(3)耕起・砕土・整地

出芽率を高めるため砕土率 70%以上、透水性や収量の向上のため耕深 15cmを目標とします。



アップカットロータリーでの耕うんにより、直径 2cm 以下の土塊を 70%以上にする。

(4)は種

1㎡当たり 100～120 本の苗立数を確保します。

○ は種時期

品種	標高 200m 以下	標高 200～400m
とよむすめ	8月上旬	7月下旬～8月上旬
信濃1号、及び とよむすめを除く品種	8月上～中旬	7月下旬～8月上旬

○は種量

条播:5kg/10a 程度

条間は 45cm 程度、覆土は2～3cm 程度とする

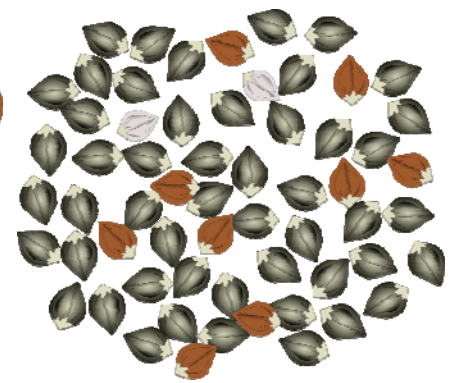
散播:7～8kg/10a 程度

は種後、ロータリやレーキで深さ3cm 以内に浅く混和
(深まきに注意し、乾いている時に十分鎮圧する。)



収穫適期・刈取り

○ そばの開花期間は 30 日程度で、1 粒 1 粒の成熟は同じではありません。収穫適期は、子実の黒化率(子実全体のうち黒くなった粒の割合)で判断します。



黒化率の判定は最長花房
(一番上の房)で判定する

- コンバイン収穫では、成熟期(黒化率70～80%)頃が収穫適期です。刈取りは晴天の日中に行うようにし、低速・低回転でていねいに行います。
- また、子実が収穫適期に達していても、落葉が遅れている場合は、コンバイン収穫時に脱穀部の詰まりや選別不良を起こすことがあるので注意が必要です。
- コンバイン収穫したそばはムレやすいので、できるだけ早く乾燥作業に移りましょう。



乾燥・調製

(1)乾燥

ア 平型乾燥機を使用する場合

送風温度30℃以下で乾燥を行い、乾燥の均一化を図るために乾燥途中で攪拌します。

イ 循環乾燥機

- 収穫されたそばに茎などのごみが多いと、循環不良による乾燥ムラが起りやすいので、粗選機を用いて荒選後、乾燥機に投入しましょう。
- 穀粒が硬くなる水分20%程度までは、通風乾燥します。それ以降は、通常の連続循環方式で乾燥します。
- 火力乾燥するときの乾燥温度は、そばの品質を落とさない35℃(穀温30℃程度)以下にします。
- 仕上げ水分は 16%とします。

(2)調製

調製は、唐箕とライスグレーダーを使用して整粒歩合75%以上を目安に仕上げましょう。